

健康経営法人を認定

経産省ら大・中小規模600社超

日本健康会議と経済産業省は2日、健康経営優良法人2020の認定法人を発表した。大規模法人部門148

1法人、中小規模法人部門4723法人を認定した。同認定制度は地域の健康課題に即した取り

組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業を顕彰するもの。健康経営に取り組み優良

な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業、金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、社会的に評価を受ける環境の整備を目的としている。

今回、大規模法人部門のうち特に優良な健康経営を実践している「ホワイト500」には鹿児島で生コン製造・販売を行っている南国殖産が選定された。ホワイト500以外の大規模法人部門では宇部興産、トクヤマ、三菱マテリアルが選定された。

中小規模法人部門に

選定された主なコンクリート関連企業は佐山砕石総合プラント（北海道）、ヤマコン（山形県）、桑原コンクリート工業（福島県）、秩父太平洋セメント（埼玉県）、人の森（神奈川県）、山崎ヒューマンコンクリート（新潟県）、敦賀セメント（福井県）、木下建設（長野県）、炭平コーポレーション（長野県）、太田コンクリート（三重県）、新品川商事（大阪府）、マルイ（大阪府）、西日本砕石（愛媛県）、尾藤建設（愛媛県）、豚座建設（高知県）、晃立（高知県）、南生建設

（鹿児島県）など。

このうち、敦賀セメントでは、メンタルヘル스에留意し、衛生関係の講習会を年に複数回行うほか、ストレスチェックは希望者に対して産業医との面談も併せて実施している。一方、ヤマコンは社内安全環境部を設置し、専任の部長も配置。安全衛生全般を見直し、生活習慣の改善やメンタルヘルス対策、喫煙対策に取り組んでいる。インフルエンザ対策では予防接種を全額会社負担で全従業員に行い、本社では産業医が数回訪問し、予防接種を行っている。